

『音韻論』(朝倉日英対照言語学シリーズ 3) 正誤表

2021年4月公開 (2023年5月一部修正)

▼2刷修正点 (2015年8月刊行)

- p.14 下から1行目

あるということは[h]と…同じ音素の異音どうしである。

⇒あるため[h]と…同じ音素の異音どうしであると結論づけてしまうかもしれない。

- p.15 上から9行目

したがって、……似ていないため音声的類似性の原則に違反するということになる。

⇒したがって、……似ていないため異なる音素と結論づけられる。

- p.22 上から10行目

歯音、歯茎音、後部歯茎音、硬口蓋音は ⇒ 歯音、歯茎音、後部歯茎音は

- p.23 表5

後部歯茎音／硬口蓋音 ⇒ 後部歯茎音

* いざれも「硬口蓋音」をトル

- p.28 下から7行目

a. [nəɪs] nice ⇒ a. [nəɪf] knife (2023年5月修正)

i. [naɪn] ninth ⇒ i. [naɪnθ] ninth

*上記「a.」の修正についての補足 (2023年5月追記)

・当初の正誤表および2刷では、[nəɪf] knifeと修正しておりましたが、発音記号がまちがっておりました。正確には[nəɪf]となります。お詫び申し上げます。

また、「niceをknifeに変更した」意図につきまして、読者の方からお問い合わせがございました。お返事方々、この機会に以下のようないくつも補足解説を編者の菅原先生に、以下のような補足解説いただきました。

＊＊＊＊

この問題は Canadian Raising の現象を扱っていますが、knife(もしくは同じように「アイ」の直後に無声歯茎音以外の無声子音が来ている語であれば他の語でもいいが)を例に入れないと、「アイ」が raising する環境は「無声歯茎音の直前」、すなわち[一有声性、+舌頂性、+前方性]の直前であるという一般化が導きだされることになってしまいます。しかしこの Canadian Raising は無声歯茎音の直前だけではなく、無声子音全般の直前で起こりますので、少なくとも1つは無声歯茎音以外の無声子音の直前で「アイ」が raising を起こしている例を入れる必要があります。よって、niceをknifeで置き換えました。

＊＊＊＊

- p.45 上から5行目

a. 音節主音的[l] 歯茎音の後ろの場合 cattle wrestle muddle student

⇒音節主音的[l] 歯茎音の後ろの場合 cattle wrestle muddle

* studentをとる

・p.90 表 1 解説

「第一強勢を…をふつてある」の一文をとる

・p.94 下から 9 行目

[product-ive_I]-ity_I, [logic-ali]-ly_{II}, [rain-y_{II}]-ness_{II}, un_{II}-[book-ish_I]
⇒[product-ive_I]-ity_I, [logic-ali]-ly_{II}, [rain-y_{II}]-ness_{II}, un_{II}-[book-ish_{II}]

・p.97 コラム 3 5 行目

「後者は文化, 政治, 経済などの分野の…」⇒「後者は文化, 政治, 軍事などの分野の…」

・p.97 コラム 3 6 行目

(language, music, government, exchange など) ⇒ (jewel, royal, army など).

・p.136 下から 8 行目

・・・また, この示唆的普遍性の関係は・・・

⇒・・・また, この含意的普遍性の関係は・・・